

全県

11/15

全県

県建設部と合同で懇談

県空衛協と県電設協



県空衛協の篠田会長(左)と県電設協の柄澤会長(右)

県空調衛生設備業協会(篠田忠尚会長)と県電設業協会(柄澤守孝会長)は11月15日、長野市内で県建設部と懇談会を開いた。県側は、県建設部の施設課と建築住宅課から久保田達也施設課

長ら4人が出席。県空衛協は篠田会長以下15人、県電設協は柄澤会長以下19人が参加した。懇談は県空衛協の岩田昇副会長を座長に「入札制度」「総合評価方式」「検査、提出書類の簡素化」「働き方改革と新型コロナウイルス感染症の対応」「カーボンニュートラル促進」「その他」の6項目にわたって意見を交わした。

で若手の入職が少ない会社が多く、今後どれだけの会社が残っていくか懸念される」とした上で、建設業の長時間労働規制が1年4カ月後に始まる。地域の中小企業の先行きが大変心配」と伝え、県電設協の柄澤会長は「適正で合理的な受注環境の確保と分離発注の推進、担い手の確保・育成や生産性向上への取り組みなどの活動を積極的に進め、行動し、夢と生きがいのある協会としていく」と述べた。県施設課の久保田課長は「業界として新たな人材の確保や育成、働き方改革への対応や新型コロナウイルス対応などの課題は多いがともに取り組んでいきたい」とあいさつした。

力向上へ

現場研修

県内のトンネル施工業者でつくる長野県トンネル工事研究会(吉川昌利会長)は11月16日、天龍村で施工が進む「福島トンネル」で

の技術力向上を図った。開会あいさつで安野正和顧問(吉川建設)は「近年、県内では多くのトンネル工事が発注され、地元住民か

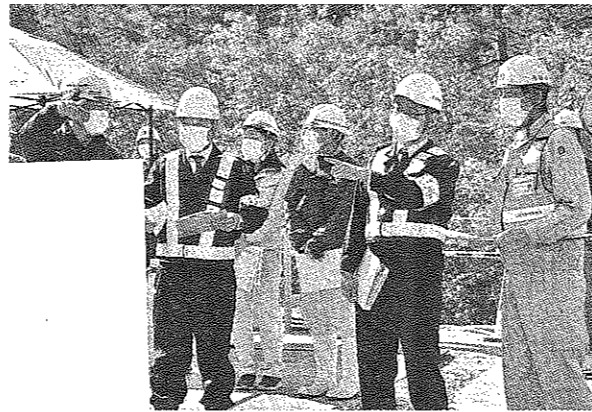
てほしい」と話した。当日は、同トンネル施工業者の岡谷組・小池建設特定建設工事共同企業体の小口光さん(岡谷組)と同事

全県

11/11

合同緊急パトロールを実施

長野労働局と長野労働基準監督署



で適切に作業が行われているか確認

県内で今年9月末からわずか半月の間に6人の労働災害死亡事故が発生していることを受け、長野労働局と長野労働基準監督署が合同で緊急パトロールを実施

11月11日、長野市篠ノ井小松原の国道19号近くで行われている地すべり対策工事の現場を訪問し、現場で適切に作業が行われているか確認した。

開会式で長野労働局労働基準部健康安全課の小林全課長は「積極的な安全対策の事例を確認して、県内の建設現場や他の業種のさまざまな事業所での安全意識を高めることを期待する」とあいさつ。現場では、工事を担当する高木建設の黒岩達也土木部次長が工事概要や安全対策などを説明。パトロール出席者らは、クレーンで吊り上げ前の杭がしっかりとワイヤーにつながっているか、地上の作業者とクレーン操作者が無線を使い適切に連絡を取り合っているかなどを確認した。長野労働基準監督署の久間誠司署長は「3大災害のあらゆる要素が含まれている危険な現場ではあるが、安全に配慮し、全体的に整えられたきれいな現場の参考となる」と話した。

全県

11/10

長野工業高校で出前講座

県鉄筋業協会



県鉄筋業協会が長工で出前講座

県鉄筋業協会(竹花道之会長)は11月10日、長野工業高校で土木科の2年生を対象にした出前講座を行い、鉄筋コンクリート造構造物の配筋について指導した。

同協会青年委員会の主催によるもので、中村智委員長ら8人の委員が出席し、講師を務めた。始めに鉄筋工の仕事を流

れについて説明を聞き、さっそく実習を開始。生徒は5班に分かれて、高さ幅、奥行き、幅、奥行き、逆T型擁壁を配筋図に基づいてチョークでピッチを記し、鉄筋を並べて結束する作業を一連で行い、約3時間かけて組み立てた。



竹花会長は「図面では一本の線でも、鉄筋の太さが違って干渉する難しさや面白さを肌で感じてもらいたかった。この講座を通して一人でも多くの生徒に鉄筋業に入職してほしいし、将来、どんな職種についても鉄筋の仕事を理解できる人材を育てることが有意義」と話していた。

表彰工事表 7社9工事に栄誉

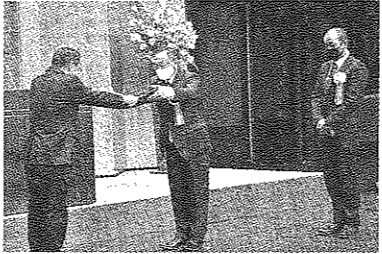
上田市(土屋陽一市長)は11月7日、サント年度優良建設工事の表彰式を開催した。今年度完成した請負金額500万円以上の建設から特に工事成績の優れた7社・9件を選出求められる。次世代に合う体制へ



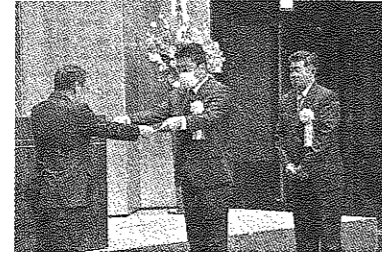
栄誉を称える土屋市長



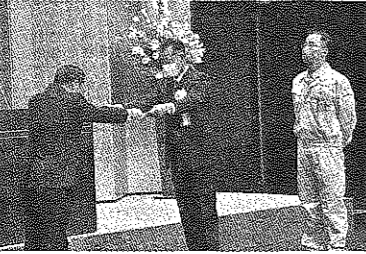
謝辞を述べる宮下組の石塚社長



宮下組



高樹



柳屋建設

